

研究課題：相談内容の分析等を踏まえた相談支援センターの在り方に関する研究

課題番号：H18—がん臨床—一般—022

研究代表者：茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 副院長

雨宮隆太

## 1、 本年度の研究成果

国立がんセンターがん対策情報センターでは昨年に引き続き、相談支援センターのあるべき姿および備えるべき機能を検討する目的に全国のがん診療拠点病院 353 施設に依頼し、相談支援センターの設備・院内体制ならびに1週間の相談記入シートの収集を行った。相談支援センターのスタッフに関しては全体では半数の施設が専任スタッフ1名という状況にあり、地域拠点病院よりも都道府県拠点病院の方が充実していた。また、病院の機能別に比較するとスタッフの充実度はがんセンター・大学病院・一般病院の順であり、患者図書の充実等の機能面に於いても同様の傾向であった。相談内容では在宅医療、介護・看護・養育、転院、医療費・生活費に関するものが多いという結果であった。

開院時より患者・家族への相談支援業務を病院理念の一つに取り上げてセンターの運営を行っている静岡がんセンターでは相談内容の検索、分析、保存に優れたデータベースを作成した。データベース作成により効率的な情報収集が可能となると共に情報を共有することで自己学習や新人教育にも応用できるようになっている。相談内容の保存だけでなく、代表的な相談内容及びその相談に対する対応（相談 FQA）も同様にデータベース化することで相談員間での対応の質の維持ならびに均一化が図られる。

四国がんセンターでは相談内容のデータベース化をウェブ上で行えるようなシステムを開発し使用開始した。データの集計や各種分析が容易になり、自施設の特徴を把握し易くなっている。ウェブ上での情報収集ではそのセキュリティ管理が問題となるが、アクセスの際のパスワード管理、さらには個々の情報の暗号化を行い、万全を期している。このウェブ上のデータベースは他施設でも使用可能なシステムとして開発されている。

茨城では昨年作成した相談支援センター Q & A ハンドブックに地域拠点病院情報だけでなく県内 100 床以上の病院の機能情報を追加する方針で情報収集を行っている。新しいハンドブックの完成により、患者さん・家族は拠点病院だけでなく身近な病院の情報を知ることが出来るようになり、どの病院を受診すればよいのかという判断が容易になる。

## 2、 前年度までの研究成果

全国のがん診療連携拠点病院 286 施設の相談支援センターに対して、アンケート調査をおこない状況を分析した。その結果、がん専門病院、一般総合病院、大学病院によっ

て、体制等に相違があることが明らかになった。茨城では均てん化した質の高い回答が可能な地域に密着した県内総合対応用の相談窓口ツールの必要性に迫られ、地域がん診療連携拠点病院とその周辺医療圏の情報を記載した相談支援センターQ&A ハンドブックを作成し、県内のがん診療・緩和医療を行っている施設に配布した。

### 3、 研究成果の以後ならびに今後の方向性

「がん対策基本法」により、がん診療連携拠点病院では相談支援センターの整備が行われているが、相談支援に積極的に取り組んでいる施設とそうでない施設の格差が大きいのが現状である。この格差が是正されないと新たながん難民を生み出してしまう危険性も出てくると予想される。本研究班で蓄積されたノウハウを元にどの拠点病院でも利用できるような基本的なシステムを構築し、そのシステムが全拠点病院で運用されるような取り組みを行っていくことが必要である。さらに相談支援センターが患者・家族と医療機関の潤滑油になるとともに拠点病院以外の地域医療機関との橋渡しの役割も持つ存在になると思われ、地域連携パスの運用に於いても中心的な存在になるようなシステム作りをしていく必要がある。

### 4、 倫理面への配慮

各がん診療拠点病院における相談事例の収集において個人情報への扱いには十分な配慮を行っている。データ収集の際には匿名化を行い、またデータ使用に関しては最初に相談者の承諾を得るようにしている。ウェブ上での情報収集においてはデータのパスワード管理や暗号化によるセキュリティ対策を講じ、情報漏洩がおこらないようにしている。

### 5、 発表論文

- 1) 雨宮隆太：地域がん診療連携拠点病院に指定された総合病院の相談支援センターの現状、茨城県立病院医学雑誌、25：67-77, 2007
- 2) 谷水正人：がん患者の継続医療を可能とする地域連携システム 癌と化学療法 34 (Suppl) 170-174 2007
- 3) 谷水正人：【日本の医療制度を考える】 喫緊の医療政策 世界からみた日本のがん医療 がん対策基本法にみる日本のがん医療の課題 総合臨床 56 (12) 3233-3236 2007
- 4) 谷水正人：5 大がんの地域連携パスに寄せる同床異夢をひもとく 看護管理 18 (2) 125 2008
- 5) 谷水正人：がん診療連携拠点病院に期待される5大がんの地域連携クリティカルパス 治療 90 (3月特集号) 727-731 2008
- 6) 谷水正人：地域連携パス 現況と今後の課題】 がん領域における地域連携ク

- 7) 若尾文彦：がん診療ガイドラインの効果的な整備と活用について。癌の臨床 54. 468-473, 2008
- 8) 若尾文彦：がん対策基本法に基づくがん診療。Medicina 45(8). 1366-1369, 2008
- 9) 若尾文彦：がん対策基本法施行から 1 年を経て。Cancer Frontier 10. 176-179, 2008
- 10) 若尾文彦：がん情報を利用しましょうーがん対策情報センターの取り組みー。診療と新薬 45. 1025-1042, 2008

#### 6、 研究組織

① 研究者名	② 分担する研究項目	③ 最終卒業学校・卒業年次・学位および専攻科目	④ 所属機関および現在の専門（研究実施場所）	⑤ 所属機関における職名
雨宮隆太	相談内容の分析等を踏まえた相談支援センターの在り方に関する研究	東京医科大学大学院昭和 50 年終了、医学博士、呼吸器外科	茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター	副院長
石川睦弓	相談支援センターにおける情報提供のあり方に関する研究	筑波大学大学院教育研究科・平成 12 年卒、カウンセリング修士	静岡県立静岡がんセンター研究所、患者・家族支援研究部がん看護学	部長
谷水正人	がん相談のための院内連携、院外連携体制の構築に関する研究	岡山大学医学部・昭和 57 年卒、医学博士、消火器内科	独立行政法人国立病院機構四国がんセンター外来部 内科	部長
若尾文彦	相談支援センターにおけるコースセンター機能に関する研究	横浜市立大学医学部・昭和 61 年卒、放射線診断学	国立がんセンター がん対策情報センター 国立がんセンター中央病院 放射線診断部	情報センター長補佐 医長